

## 高収量・高品質の31年産麦生産に向けた今後の栽培管理

高収量・高品質な31年産麦生産のためには、**基本的な作業の徹底**が不可欠です！  
圃場の状態をこまめにチェックしながら、適時・適切な作業を励行しましょう。

### ① ほ場準備(排水対策、土づくり、耕起・整地)

#### 《排水対策》

- 地下水位が40~50cm以下で、団地化することが望ましい。
- 暗渠や圃場内明渠、額縁明渠などの排水溝の設置、排水溝と排水口をつないで圃場外へ確実に排水させることが重要。
- プラソイラ等による心土破碎を実施。
- 排水溝設置や心土破碎でも十分な排水性が確保できない場合は、畝立て同時播種栽培を組み合わせる。



#### 《土づくり》

- 堆肥・緑肥等の有機質資材を投入し、地力の維持・向上と土壤の通気性・透水性を確保。
- 苦土石灰等を施用して、**土壤酸度をpH6.0~6.5**に矯正。
- 初期生育を確保するため、**基肥(窒素、リン酸、カリウム)**を施用。

#### 《耕起・整地》

- プラウやロータリーを使用して耕起。
- 耕起深度は15cm、碎土率は7割を目安に耕起し、**均平に整地**。
- 土壤水分が高い時に耕起を行うと碎土率が低下するので、**圃場が乾いた状態で耕起**を行うこと。

### ② 播種(播種準備、播種)

#### 《播種準備》

- 種子は、**毎年更新**する。
- 種子伝染するなまぐさ黒穂病、条斑病などを予防するため、必ず**種子消毒**を実施。

#### 《播種》

- 地域条件・品種特性に応じて、**適期に適量を適正な深さに播種**。
- 播種期の降雨などでやむを得ず播種が遅れた場合は、播種量を増やし、苗立数の確保を図る。

# 新品種の紹介(夏黄金、はねうまもち)

農林水産省では、「新品種・新技術の開発・保護・普及の方針」(平成25年12月11日攻めの農林水産業推進本部決定)に基づき導入が期待される品種・技術リストを作成し、有用な品種・技術を紹介しています。

今回、「最新農業技術・品種2018」として、小麦新品種「夏黄金」、大麦新品種「はねうまもち」が選定されましたので紹介します。

詳細は農林水産省HPをご覧ください。

→[http://www.maff.go.jp/j/kanbo/kihyo03/gityo/new\\_tech\\_cultivar/2018.html](http://www.maff.go.jp/j/kanbo/kihyo03/gityo/new_tech_cultivar/2018.html)

### 製パン適性の優れた寒冷地向け小麦新品種「夏黄金」

種発芽し難く、赤かび病にも比較的強く、東北・北陸地域での栽培に適した製パン適性の高い小麦品種

**研究開発の背景**

東北・北陸地域で広く栽培されているパン用小麦「ゆきちから」は、準強力小麦であるため製造できるパンの種類が限定される。また、種発芽しやすく、赤かび病が発生しやすいという短所があるため、生産量が落ち込んでいる。そのため、「ゆきちから」よりパン生地の力が強く(強力小麦)、種発芽しにくく(赤かび病)に強い新品種の育成が求められている。

**研究成果の内容**

**製パン適性に優れ、病害や障害耐性を強化した寒冷地向け小麦新品種**

- たんばく質(グルテン)の組成を改良  
たんばく質含量は、「ゆきちから」と同程度だが、たんばく質の組成を改良することで、よりパン生地の力が強く、伸びも改善。
- 「ゆきちから」では製造の難しかった食パンを始め、ほとんどのパンの原料として使用が可能。
- 病害・障害耐性を強化  
種発芽性は「種」、赤かび病耐性は「中」で、「ゆきちから」より栽培特性を改善。
- 「ゆきちから」と栽培法が同じ成熟期、収穫量は「ゆきちから」と同程度で、「ゆきちから」に準じた栽培が可能。

**期待される効果**

- パン用としての用途が広がったことにより、小麦の生産拡大が期待できる。
- 品質・収量が安定し、パン用加算金の対象品種でもあるので農家所得が向上。

関係機関：農研機構東北農業研究センター、予算区分【委託プロジェクト研究】

●●● 5 ●●●

## 【夏黄金の紹介】

### 寒冷地向けもち性大麦新品種「はねうまもち」

機能性成分β-グルカンが多く含む、麦飯が「もちもち食感」で食味が良く、栽培性も優れた「もち麦ニーズ」に対応できる本格的な新品種

**研究開発の背景**

もち性大麦(もち麦)は、機能性成分β-グルカンが多く含む、「もちもち感」のある食感も好評で、需要が急増している。しかし、現在流通しているもち性大麦の多くは輸入麦で、国産もち性大麦の早急な増産が求められており、特に寒冷地での栽培性や品質の優れたもち性大麦新品種が求められている。

**研究成果の内容**

**品質・栽培性ともに極めて優れた、寒冷地向けの「もち性」大麦新品種。**

機能性成分β-グルカンは「ファイバースノウ」の1.4倍

「はねうまもち」は「ファイバースノウ」のもち性突然変異品種「もち麦としての優れた栽培性と食感」と「ファイバースノウ」とほぼ同一の優れた栽培性をあわせ持つ優良品種

「もち麦ニーズ」に対応可能な品種

- 栽培性が優れた安定多収品種
- 国産もち麦への需要者・消費者ニーズは極めて高く、安定した需要が見込める
- 「食味改良」「糖質削減の改善」「後処理の改善」

もち性大麦に多く含まれるβ-グルカンの機能性は科学的に立証されています

○6次産化により、さらなる収益性アップも可能

大麦の精製受託業者(小規模対応)も増え、もち麦を生かした6次産化や加工したものの取り組みが可能

農林水産省 穀物課のコメント  
近年、需要が増加しているもち性大麦の寒冷地向け品種です。現状、もち性大麦は、そのほとんどが輸入品である中、消費者ニーズに即した国産もち性大麦として期待されます。

導入をオススメする対象  
東北・北陸地域等(積雪期間100日以内の地域)の生産者や生産組織  
地元産小麦粉でパン製造を考えている加工業者

**期待される効果**

- 寒冷地の優れた「国産もち麦」の本格的な生産が可能になり、大麦の国内自給率が向上。
- 寒冷地での土地利用型経営に有利な品目として「もち麦」が導入される。

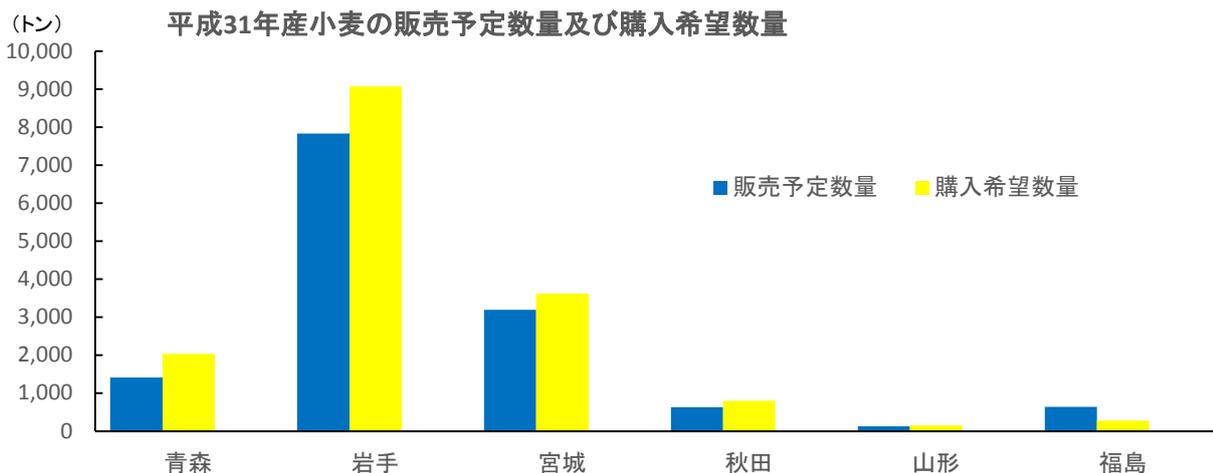
関係機関：農研機構中央農業研究センター、予算区分【産官学連携共同研究】

●●● 6 ●●●

## 【はねうまもちの紹介】

## 《東北産麦の需給について》

国産小麦の需要は年々上昇しており、製粉会社等から需要に即した生産を望む声が上がっています。東北地方においても例外ではなく、学校給食のパンにおいて県産小麦の需要は高まっています。しかしながら、東北地方における小麦生産量は、高まっている需要に対して低水準であり、逆ミスマッチを生み出しています。



資料：東北農政局生産振興課作成(各県民間流通麦地方連絡協議会資料より)

**秋の農作業安全確認運動実施中**  
**(9月1日から10月31日)**

[http://www.maff.go.jp/j/seisan/sien/sizai/s\\_kikaika/enzen/2018\\_fall.html](http://www.maff.go.jp/j/seisan/sien/sizai/s_kikaika/enzen/2018_fall.html)

